

民主党の勝利

八月三十日の衆議院選挙で「穏やかな」革命が起こったという。自民党という政党から民主党という政党に政権が移っただけではなく、明治以来の事実上の権力者であった官僚機構から国民に（その代理人としての政治家）に権力が移るのだという。さらにこれまた明治以来の中央集権制が、地域主権型地方分権制に移行していくのだという。現実の政治と歴史に対してあまり知識を持たぬ自分としては、確たる確信は無いのだが、しかし、明治維新に匹敵するような大きな何事かが起こり始めているような気がする。

「凄い時代」

奇しくも民主党勝利の直後の九月一日に「団塊世代」



の名付け親、堺屋太一氏の著書「凄い時代」が講談社から発行された。

以前から堺屋太一氏は「近代工業社会」から「知能社会」への転換を説き、「最適工業社会」としてもっとも成功した日本が、そうであるが故に「知能社会」に転換できず、行き詰っていると指摘する。「近代工業社会」の価値観は「物財の多さ」を求めめる社会であり、「知能社会」では「ひとりひとりの主観的満足」を良とする。

官僚主導の中央集権体制は、物財の効率的生産と分配には適したシステムである。しかし、物財の無限の追求が環境や資源などの限界にぶつかり、人々の美意識が「目に見える物財」から「見にくい主観的満足」に向かうとき、政治・経済のしくみの大きな転換が必要となる。

それを堺屋太一氏は「凄い時代」の中で、日本はまさにその転換期にあり、「今こそ、『明治維新』的革新を」と提言している。そしてすでにその革命的改革期（＝凄い時代）は始まりつつある。

清野吉光氏のコラム

団塊 耕 志 録 第12回



清野 吉光(きよの よしみつ)略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年㈱タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。

凄い時代



堺屋太一氏

現在の民主党がそれを担うのか、あるいはもっと新しい勢力が出てくるのか？ それは分からない。

堺屋太一氏は次の様に予測する「二〇〇九年の世界経済は政策支援の「集中治療室」状態、各国とも生命維持装置のカテーテルが何本も繋げている。しかしやがてそれを抜き始める。そのときこそ本当の衝撃が走る革命的改革期だ。恐らくそれは十一年にはじまるだろう。本当の「凄い時代」である」（『凄い時代』P. 二二）

タクシー業界も 「凄い時代」

「凄い時代」は世界や日本の政治、経済の話だけではない。まさにタクシー業界も否応なく「凄い時代」に置かれたつつある。規制緩和による車両の過剰や運賃の

乱れを解決すべく、再規制、特措法の流れが準備されたが、一方でそれは行政による監査の強化とセットであり、タクシーの従来の管理基準や手法の見直しを迫るものである。その厳しさは、多くのタクシー事業者にとっては経営そのものの存続が問われる事態になっている。今後、特措法の下、地域協議会が設置され、減車やコンプライアンスがさらに強化されたとき、はたして、業界はどうなっていくのであろうか？拘束時間や最低賃金法が厳格に実施されれば（すでにそうなりつつある）、今のタクシーの時間当たりの生産性ではクリアーできない会社が頻出するだろう。会社間の再編・淘汰が進むだろうが、しかし、本来目指すべきは業界のビジネスモデルの「革命的改革」だと思う。「近代工業社会」では「移動」は労働力の職場と居住地の単なる「輸送」であった。しかし、「知能社会」における「移動」は人間の「主観的楽しみ」として、組織される。そのようなサービスマニユア、



セミナーで講演する上西一美氏

仕掛け、価格、価格システムが考案されなければならぬ。高崎経済大の寺前教授の月極め定額乗り放題Ⅱクラブ型交通社会などが真剣に考えられる時代が来ると思われる。タクシー業界が安全、安心、乗務員の健康などの法的規制を守っても、ビジネスとして成り立ちうるモデルの創造、創発を真剣に考えねば、産業として、衰退してしまう。

しかし逆に現在の官僚主導から国民主権、中央集権から地域主権という政治的流れは、そうしたタクシー事業者の地域のニーズに即した様々な挑戦を後押ししてくれるのではないかと期待したい。まさに危機の時

代はまたチャンス時代の代もあり、だから「凄い時代」であると思う。

「凄い時代」を活かすには五つの条件があると堺屋太一氏は言う。「第一は気質。変化を歓迎、改革を好む気質だ。第二はアイディア。これから大事なものはビジネスモデルだ。第三は先見。成長分野を嗅ぎつける感覚と将来を見通す予測能力である。第四は勇気。自らを信じて撃つて出る決断力である。第五は、少しばかりの好運だろう」（「凄い時代」P.三）。

少しばかりの好運が必要というのはまさしく実感だが、是非タクシー業界から「凄い時代」を活かす人々が登場し、タクシー業界を救って欲しいと思う。オリジンも二〇〇三年の二十周年において「タクシー業界の新しいビジネスモデル創造のお役に立ちたい」と「未来への志」を掲げながら、残念ながら未だ確たる役割を果たせないでいる。しかし「凄い時代」に突入するにあたり、改めてこの自らの「志」の真贋が問われて行くと思

う。オリジンの本来の使命である、タクシー事業者のシステムのニーズに応えるソフトを開発し、そのサポートをしっかりとやりつつ、この「未来への志」への挑戦もたゆまず継続していきたいと思う。

### 経営サポート事業部設立

十月一日付で、株式会社システムオリジン経営サポート事業部を設立することになった。事業部長はこの間オリジンのセミナーなどで講師を務めて頂いた上西一美氏である。当初はO T A という子会社でスタートする予定で準備をしてきたが、当面はオリジンの一事業部で出発し、実績を積み重ね、独立した会社の実態ができた段階で、分社化をするつもりである。オリジンは今から十四年前に、オリジンのシステムをタクシー会社様に本当に活用していただくためにはオリジンにコンサルテーション的なノウハウが必要だと実感し、以来、そのノウハウ獲得を志向してきたが、しかし、やはり、大きな壁があり、それを果たせない

でいた。ところがここ数年、十年近いタクシーの運行管理、経営、そしてコンサルの経験を持つ上西さんとのコラボレーションをする機会ができ、その中で、「志」の共有と信頼関係を築く事ができたので、オリジンの「経営サポート事業部」として共にお客様へのお役立ちを目指すことにした。

上西部長の「志」や「来歴」、また事業内容については本誌の別掲インタビュー記事を参照して頂きたい。また最近オリジンが開発した「点呼支援システム」は上西部長の運行管理者時代の乗務員指導、監査対策などのノウハウを基に開発されたものである。オリジンのシステムの新たなノウハウと上西部長のタクシー事業者の立場にたったニーズとノウハウのドッキングの産物であり、タクシー事業者様にお役にたてるのではないかとと思う。

最後に「凄い時代」を勝ち残る為に必要な「凄い組み合わせ」と言われる様なコラボレーションに今後も積極的に挑戦していきたいと思う。(二〇〇九・九・二二記)

## ALCminiⅡ

Alcohol Recording System for Professional



「吹き込む」・「測定する」・「記録する」。  
ALC-miniⅡで始めるカシタ3ステップの飲酒点検。

製品貸し出し  
キャンペーン

好評発売中!!

コンパクトボディでプリンタ機能搭載!  
3ステップの簡便性と高い測定精度を実現!!  
スピーディに高精度の飲酒点検が行え、  
信頼性の高いアルコール測定記録を残すことができます。

＜お申し込み・お問い合わせ＞

株式会社システムオリジン

TEL: 03-3834-8352

関東支店営業本部

〒101-0021 東京都千代田区外神田5-3-4-7F

拠点/北海道・東北・関東・甲信越・東海

名古屋・関西・中国・九州

＜製造元＞

 東海電子株式会社

<http://www.tokai-denshi.co.jp>